

弁護側文書英一五〇〇A D-1-3

真珠湾攻撃共同調査委員会証據書類
第三十三号 校章 一 米國國會 第七十九次会
第一會期

第一會期

証據書類第三十三号

ワシントン ^{日記} 陸軍省 B-12 作成 陸軍情報判断

(昭和十六年)

(15) 一九四一年七月十八日 主題 日本の新内閣

I. B. 九九

(昭和十六年)

一九四一年七月十八日

参謀長に対する覽書

主題 日本の新内閣

(昭和十六年)

一、一九四一年七月十八日附東京卷の合同通信 緊急報告

近衛公使は高度 軍国主義的新内閣の ^{主要} 人物

概要なる様子

を ^{選定} したと傳へて居る。 ^{主要なる} 配置は次の如く

報せられて居る。

- 總理大臣 ——— 近衛公爵
- 陸軍大臣 ——— 東條將軍
- 海軍大臣 ——— 五川提督
- 内務大臣 ——— 平沼男爵
- 外務大臣 ——— 豊田提督

二、右の内初めの四名は前内閣よりの通任者である。

豊田提督は松岡前外務大臣に交代したのである。

三、豊田提督は故男爵齋藤提督（一九三六年首相

在任中暗殺さる）の子弟であって、^{（昭和十一年）} 稳健と考へられて居る。

彼は聰明にして、才幹ある武官で、文界に因する

専門家として知られて居り、且、外交に、特に ^{（對英外交）} 對英外交に

關係に於てかなりの経験と有する人物として知られて居る。

陸軍
四、新聞閣は非常に國家主義的 ^{（的）} 的 ^{（得）} 得 ^{（か）} 得

軍人が外務大臣に任ぜられた場合の事

せられたものよりは ^{（やうな）} 多分は ^{（多分）} 多分は 稳健、且保守的であると考へ

日本の南進は更に促進されるであろう。
序章
之に就いては

豊田提督が商工大臣として、視察旅行を終へたばかり。

であり、日本の外國貿易及国内經濟の要すべき状態

件はこれに就て熟知して居ることも係せて記憶されなければ

斯かる外國貿易が

あり、それ故、日本産業の活力の素であるに鑑み

（彼が）

外務大臣として外國貿易を改善するに努むるべき

取捨
期行される。

米國陸軍代將

參謀次長代理 G12

レヤルマン
マイルス

第10卷 三四頁 真珠湾攻撃